

受診者の声に応じて採用した経鼻内視鏡

今では上部消化管検査の8割が“鼻から”を選択



愛媛医療生活協同組合

愛媛生協病院

〒791-1102 愛媛県松山市来住町1091-1 TEL.089-976-7001 FAX.089-976-7029
URL <http://seikyo.ehime-med.or.jp/>

松山市にある愛媛生協病院が経鼻内視鏡を採用したのは、2006年9月だった。年度の途中で採用したことになるが、これには訳がある。副院長の和泉明宏医師はこう語る。

「うちの法人である愛媛医療生活協同組合は、この地域で3つの拠点を持っています。80床の愛媛生協病院と2つの診療所です。2006年の春に一つの診療所で経鼻内視鏡を採用したところ、検査を受けた患者さんの「とても楽だ」という好評の声が口コミで広がり、こちらの病院でもできないかと多数の要望が寄せられたのです。そこで、年度の途中で急ぎよ採用を決めました」

その後1本を追加し、現在4本の胃カメラのうち2本が経鼻内視鏡だ。しかし、稼働率となると、経口内視鏡に比べて経鼻内視鏡が圧倒的に多い。

2007年10月で見ると、上部消化管の検査総数255件のうち、経鼻内視鏡が205件。同年4月から10月までの外来と健診の合計で、経鼻内視鏡の比率は79.6%にのぼった。

「患者さんのメリットとしては、鼻から入るので喉への刺激が少なく、その分嘔吐反射がなくなります。細いので、食道に入ってから咽頭を通過する抵抗感も小さいようです。医師のメリットとしては、経口内視鏡に比べてストレスが軽減され、落ち着いて検査できることです」

そう語るのは、外科医長の塚本尚文医師だ。「経口内視鏡だけじゃなかった頃、嘔吐反射が強く出る人には安定剤を使用していました。しかし、眠っていると検査中に無意識で暴れる人もいたのです。そういうことが無くなったのも良かったと思います」

安定剤で眠ってもらう過程が省けたことは、看護師たちにも好評だ。

「経鼻内視鏡になったら安定剤を使わないので、検査後のフォローがずいぶん楽です。その分一人ひとりの患者さんにきっちりした対応ができますし、検査の流れがスムーズになって、次の検査の開始が遅れることも無くなりました」

と語るのは、内視鏡を担当する看護師の責任者である角藤未栄看護師だ。介助をする側が楽になったということは、それだけ介助される側も楽になったことを意味している。

愛媛生協病院では、上部消化管の検査は、ほぼ毎日、午前中に行っている。内科医と外科医が曜日を決めて内視鏡室を使い、医師と看護師がペアになって約15分で一人の患者さんを診る。午前中の診療時間は3時間なので、1台の経鼻内視鏡で12人の患者さんを検査できる計算だ。

その地道な取り組みには、地元の評価も高い。まさに、地域医療の先頭に立って、胃がんの早期発見に努める姿といえるだろう。

INFORMATION

●診療科目

内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、外科、整形外科、小児科、リハビリテーション科、精神科、肛門科、リウマチ科、アレルギー科

●診療受付時間

月曜日～金曜日/8:30～12:00、14:30～18:30
土曜日/8:30～12:00
(曜日、時間帯により診療していない科があります)

●休診日

日曜日、祝日



外科医長 塚本尚文